

主要産地における令和4年産水稻の生育状況等について 第12報 (令和4年8月19日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年8月19日)

道府県	生育状況等		(参考)	
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)
北海道	(生育)	<p>【生育状況(8月15日現在)】</p> <p>(全道)生育は平年並に進んでいる。(北海道農政部 8月19日付)</p> <p>(空知)生育は平年並である。(空知総合振興局 8月19日付)</p> <p>(石狩)生育は概ね順調。(石狩振興局 8月19日付)</p> <p>(後志)遅速は早2日。(後志総合振興局 8月19日付)</p> <p>(胆振)生育は平年並。(胆振総合振興局 8月19日付)</p> <p>(日高)出穂・開花時期の高湿により、生育は平年並に進んでいる。(日高振興局 8月19日付)</p> <p>(渡島)生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 8月19日付)</p> <p>(檜山)生育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 8月19日付)</p> <p>(上川)生育は平年並に進んでいる(水稲うち)。生育はやや早く進んでいる(水稲もち)。(上川総合振興局 8月19日付)</p> <p>(オホーツク)生育は平年よりやや遅れている。(オホーツク総合振興局 8月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かみんの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「なつぽし」及び「ゆめひかり」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。</p> <p>(農林水産省 3月16日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>・8月10日現在の水稲出穂状況は、県全体で98%となっており、平年より4ポイント高かった。</p> <p>・県全体の出穂終わりは、平年より2日早い8月9日であった。</p> <p>(青森県 8月12日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、セジロウカ、斑点米かみん、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年度も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(生育)	<p>・県内の水稲の出穂盛期(50%)は平年並の8月5日となった。</p> <p>・8月9日現在の県全体の出穂割合は83%(平年差▲11ポイント)となっており、終期(90%)の到達は平年より1～2日遅い 8月10～11日頃の見込み。</p> <p>(岩手県 8月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、セジロウカ、斑点米かみん、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>・8月15日現在、水稲作付見込面積の97.6%の水田が出穂期に達している。</p> <p>・県全体の穂揃期は、8月12日で平年より2日遅い。</p> <p>(宮城県 8月16日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かみんの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(由利)管内では水稲の出穂が進んでいる。(秋田県農林水産部 8月12日付)</p> <p>(仙北)管内あきたこまちは8月1日に全出穂を迎えた(平年8月2日)。8月5日で約80%のほ場が出穂しており、出穂のそり合いは良好とみられる。(秋田県農林水産部 8月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、セジロウカ、斑点米かみん、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>・日照不足の予報となっており、登熟が遅延となり、千粒重の低下が懸念される。</p> <p>(山形県 8月16日付)</p> <p>(鶴岡田川)生育診断の出穂期は、「はえぬき」(鶴岡市矢野)が7月31日で平年より3日早く、「つや姫」(鶴岡市上清水)が8月4日で平年より4日早かった。直播栽培や管内の比較的出穂が遅い地域の「つや姫」では出穂期を迎えている。(庄内総合支庁農業技術普及課 8月12日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かみんの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>【8月2日現在】(農業総合センターの作柄解析試験)</p> <p>・農業総合センターの生育調査における「ひとめぼれ」の出穂期は、本部(郡山市)が8月2日時点で未達、会津地域研究所(会津坂下町)が3日遅れ、浜地域研究所(相馬市)が1日遅れとなっている。</p> <p>(福島県 8月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かみんの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、飼料米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
茨城	(生育)	<p>【8月8日現在、龍ヶ崎市】</p> <p>(4月27日移植)・出穂期は「あきたこまち」で平年並の7月11日、「ふくまる SL」で平年並の7月15日、「コシヒカリ」で2日早い7月22日だった。</p> <p>・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より1日早い8月18日、「ふくまる SL」で1日早い8月22日、「コシヒカリ」で3日早い8月29日である。</p> <p>(5月6日移植)・「コシヒカリ」の出穂期は平年より4日早い7月24日だった。</p> <p>・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温による成熟期の予測は、平年より5日早い9月2日である。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月12日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>

<p>栃 木</p>	<p>【7月20日調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「早稲コシヒカリ」草丈は平年よりやや高く、茎数はやや少なく、葉色はやや淡く、生育量（生育診断値）は平年をやや下回っている。 「コシヒカリ」（5月4日移植、宇都宮市）の出穂期は7月26日頃の予測（平年より4日程度早い）。（栃木県農政部長官事務課 7月25日付） <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
<p>千 葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方は6月27日に平年より22日早く梅雨明けし、平年より気温が高く推移した。このため、幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より3日早く出穂期を迎え、「コシヒカリ」「粒すけ」は平年並に出穂期を迎えている。 成熟期は4月20日播種の「ふさおとめ」が8月10日から、「ふさこがね」は8月15日から、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月25日からと予測される。（千葉県 7月25日付） <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品种「粒すけ」の本格栽培が開始
<p>新 潟</p>	<p>【8月8日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こしいぶき」の出穂期は、県平均で平年に比べ3日早い7月23日。「コシヒカリ」の出穂期は、平年より1日早い8月3日で、「新之助」では1日早い8月9日の見込み。出穂期のばらつきが大きい状況。 <p>(新潟県 8月9日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、7月7日～10日、斑点米が、紋枯病の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 8月10日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成となっているものの、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子実」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品种「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。
<p>富 山</p>	<p>【生育状況（7月19日）】</p> <p>「コシヒカリ」：平年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ3日早い7月8日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より3日早い7月30日頃と見込まれる。</p> <p>「てんたかく」：5月1日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月14日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月18日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」：平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月11日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>「富富富」：近年に比べ、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、近年より3日早い7月10日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より3日早い8月1日頃と見込まれる。（富山県 7月19日付）</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、7月7日～10日、斑点米が、紋枯病の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 8月10日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿で安定している「てんこもり」及び「てんたかく」のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。
<p>石 川</p>	<p>【7月28日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」出穂期予想 加賀：7月23日～7月28日、平年に比べ3～4日早い。能登：7月27日～7月31日、平年に比べ3日早い。 草丈 「コシヒカリ」の草丈は平年比106%（加賀地域104%、能登地域108%）とやや長い。「ひやくまん穀」の草丈は近年比103%（加賀地域106%、能登地域99%）と並であるが加賀地域はやや長い。 生育量 「コシヒカリ」は、平年比107%（加賀地域114%、能登地域97%）と並になっているが加賀地域でやや多い。既に出穂期を迎えている圃場が多いことから、穂数は平年並～やや多くなる見込みである。 「ひやくまん穀」は、近年比101%（加賀地域108%、能登地域92%）と並になっており、目標穂数は確保される見込みであるが、目標を下回る見込みの圃場も見られる。 <p>(石川県農林総合研究センター 8月1日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、7月7日～10日、斑点米が、紋枯病の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 8月10日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。
<p>福 井</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ハナエチゼン」は、成熟期前まで葉色が濃いところも多く、雨や曇りが続いたため、登熟がやや遅くなった。 登熟が早く進んだところは、8月10日から収穫している。 <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月17日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、7月7日～10日、斑点米が、紋枯病の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 8月10日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品种である「いちほまれ」が増加傾向にある。
<p>長 野</p>	<p>【標高348m須坂市八重森の農業試験場における水稲生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出穂期は「あきたこまち」で平年並、「コシヒカリ」で2日、「風さやか」で1日遅かった。 <p>【標高1017m原村の原村試験場における水稲生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出穂期は、「きらりん」で1日、「ゆめしなの」で2日、「あきたこまち」で3日早かった。 <p>(長野県農業試験場 8月16日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。（気象庁）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 8月10日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。
<p>滋 賀</p>	<p>【農業技術振興センター 水稲作況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年より長く、茎数は少なく、葉色は濃く推移している。 「みずかがみ」の出穂期は、平年より2日早い7月21日となった。 県内ほ場の「みずかがみ」では、7月18日頃を中心に出穂期を迎えている。 5月上旬移植の「コシヒカリ」では7月24日頃に出穂期を迎えている。 <p>(滋賀県農業技術振興センター 7月26日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>向こう1か月、7月7日～10日、斑点米が、いもち病、穂葉枯病の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 8月10日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。

兵 庫	<p>【8月1日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈が平年並～やや短く、莖数は多い。一方で、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べて短く、莖数は「ヒノヒカリ」で極めて多く、「きぬむすめ」でかなり多い。 ・県北部では、草丈はやや短く、莖数は極めて多い。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早くなる見込みである。 <p>(兵庫県 8月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>向こう1か月、77°030'N、斑点米が、いもち病、穂葉枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
岡 山	<ul style="list-style-type: none"> ・早生品種は、出穂が平年並から3～7日早く、莖数は概ね平年並となっている。 ・このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると予想される。 ・中生・晩生品種は、分けつ盛期～幼穂形成期で、莖数は概ね平年並となっている。 <p>(岡山県農林水産総合センター 8月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、77°030'N、斑点米が、いもち病、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島	<p>【8月2日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼穂形成期は「あきさかり」は前年並であったが、「コシヒカリ」は平年より早く、「あきまろ」「中生新千本」「ヒノヒカリ」は前年または平年より遅かった。また、出穂期は「コシヒカリ」が既に迎えているが、平年並であった。 <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 8月2日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、77°030'N、斑点米が、いもち病、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
愛 媛	<p>【8月1日現在】(愛媛県農林水産研究所内水田ほ場)</p> <p>(早期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あきたこまち」の出穂期は平年より2日早く、「コシヒカリ」の出穂期は平年と同じであった。 ・莖数は両品種とも平年よりかなり多かった。 <p>(普通期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植40日後の草丈は「あきたこまち」「ヒノヒカリ」「にこまる」で平年より高かった。 ・莖数は「ヒノヒカリ」「にこまる」「ひめの涙」で平年より多く、葉色は「あきたこまち」「ヒノヒカリ」「にこまる」で平年より濃かった。 <p>(愛媛県農林水産研究所 8月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、77°030'N、斑点米が、いもち病、穂葉枯病、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着している。
高 知	<p>(早期稲・7月月報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂時期は平年より早かったが、収穫時期は平年並で、「南国そだち」の収穫は7月17日頃から、「よさこい美人」は25日頃から始まり、「コシヒカリ」は月末からとなっている。収穫量も概ね平年並だが、穂いもちと紋枯病の発生が例年よりも多く、多発ほ場では減収となる見込みである。 <p>(普通期稲・7月月報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野部～中間地は概ね順調に生育しているが、山間部では穂付時期が遅かったり、最低気温が低かった影響で、生育に遅れが出ている地域がある。また、水不足の影響で雑草の発生が多く、葉いもちの発生が見られる圃場もある。出穂時期の早い品種では紋枯病が発生し始めている ・(高知県病害虫防除所 8月4日付) <p>【作柄の良否】 (早期栽培) 平年並 (農林水産省 7月29日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、77°030'N、斑点米が、いもち病、穂葉枯病、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月10日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」及び「元気づくし」を中心とする品種構成である。
福 岡	<p>【7月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、コシヒカリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月中下旬植えの出穂期は7月7～13日程度で平年よりやや早い。稈長はやや長く、穂数は平年並～多い。 <p>【普通期水稲】(夢つくし、元気づくし、ヒノヒカリなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月上旬植えの「夢つくし」は莖数が確保され、中干し時期を迎えている。 ・移植後、高温多湿で経過したため、生育は順調に進んでいるが、降水量が少なく、用水を確保しにくいほ場では生育量がやや小さい。 <p>(福岡県農林業総合試験場 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気づくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気づくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新種「夢つくし」の拡大を推奨している。
熊 本	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) やや良</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(生育・作柄)</p> <p>【生育状況(7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は分けつ期 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月29日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。
宮 崎	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) やや不良</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みそ368」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) やや不良</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月20日～9月19日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつづか」への移行が急速に進んでいる。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和4年8月19日 15時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 8月15日現在(北海道農政部 8月19日)、
農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道石狩振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道檜山振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月19日)、
農作物生育状況調査の概要(令和4年8月15日現在)(北海道留萌振興局 8月19日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月19日)、
8月10日現在水稲出穂状況(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 8月12日)、
岩手県内の水稲の出穂状況(8月9日現在概況速報)について(岩手県 8月10日)
令和4年産水稲の出穂状況について(8月15日現在)(宮城県 8月16日)
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(8月19日閲覧)、
おいしい米づくり情報緊急号(庄内総合支庁農業技術普及課 8月12日)、
米づくり技術情報No.13(山形県県産ブランド推進課 8月16日)、
主要な農作物の生育情報令和4年度第5号(福島県農林水産部 8月10日)、
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所 8月12日)、
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.6(栃木県 7月25日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第5号)(新潟県 8月9日)、
TACS情報第8号(富山県 7月19日)、
令和4年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 8月1日)、
稲作情報No.14(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月17日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和4年度)(長野県農業試験場 8月16日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和4年度)(長野県農業試験場 8月16日)、
令和4年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月26日)、
令和4年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)(兵庫県 8月5日)、
水稲の高温による品質低下防止対策について(岡山県農林水産総合センター 8月1日)、
令和4年度の水稲の生育状況(8月2日時点)(広島県総合技術研究所農業技術センター 8月2日)、
2022年産水稲の生育状況(愛媛県農林水産研究所 8月9日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 8月4日)、
福岡県の主な農産物の生産状況(専技情報より抜粋)令和4年7月15日現在(福岡県農林業総合試験場 7月21日)、
令和4年度病害虫発生予報第2号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月29日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁大阪管区気象台)、
中国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁広島地方気象台)、四国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁高松地方気象台)、
九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(8月18日気象庁鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁大阪管区気象台)、
中国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁広島地方気象台)、四国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁高松地方気象台)、
九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁鹿児島地方気象台)、

令和4年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月29日)、
令和4年度 病害虫発生予報第6号(農林水産省 8月10日)、
令和4年産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)

(参考)

気象概況

北日本太平洋側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温	降水量	日照時間
	平年差(°C)	平年比(%)	平年比(%)
7/26~8/1	2.1	104	137
7/27~8/2	2.0	162	126
7/28~8/3	1.6	228	113
7/29~8/4	1.1	241	98
7/30~8/5	0.6	229	90
7/31~8/6	▲ 0.1	224	79
8/1~8/7	▲ 0.7	222	62
8/2~8/8	▲ 0.3	197	64
8/3~8/9	0.1	172	64
8/4~8/10	0.5	123	68
8/5~8/11	1.1	145	72
8/6~8/12	1.7	183	72
8/7~8/13	2.3	197	72
8/8~8/14	2.5	213	79
8/9~8/15	2.2	202	82
8/10~8/16	1.9	255	77
8/11~8/17	1.8	231	102

北日本日本海側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温	降水量	日照時間
	平年差(°C)	平年比(%)	平年比(%)
7/26~8/1	1.6	80	139
7/27~8/2	1.5	100	119
7/28~8/3	1.3	163	108
7/29~8/4	1.1	169	104
7/30~8/5	0.8	167	108
7/31~8/6	0.4	164	96
8/1~8/7	0.1	174	92
8/2~8/8	0.3	196	93
8/3~8/9	0.6	273	95
8/4~8/10	0.8	230	95
8/5~8/11	1.1	259	95
8/6~8/12	1.5	295	86
8/7~8/13	1.8	312	81
8/8~8/14	1.9	327	82
8/9~8/15	1.5	282	83
8/10~8/16	1.2	304	77
8/11~8/17	1.1	286	94

東日本日本海側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温	降水量	日照時間
	平年差(°C)	平年比(%)	平年比(%)
7/26~8/1	1.9	6	147
7/27~8/2	2.2	5	147
7/28~8/3	2.3	37	142
7/29~8/4	1.8	250	124
7/30~8/5	1.5	302	119
7/31~8/6	1.3	301	111
8/1~8/7	1.1	296	105
8/2~8/8	1.1	287	100
8/3~8/9	1.1	276	96
8/4~8/10	1.3	228	97
8/5~8/11	2.0	44	109
8/6~8/12	2.5	7	99
8/7~8/13	2.5	76	91
8/8~8/14	2.2	158	76
8/9~8/15	1.9	180	63
8/10~8/16	1.5	249	51
8/11~8/17	0.9	266	46

資料:気象庁